

令和4年度（2022年度）公共事業再評価調査

（様式3）

基準年月日 令和4年8月1日

調書番号	06-01	所管部	農政部	作成責任者	農村振興局農地整備課長 岩田 正敏
				担当係	水田整備係（内）27-568

I 基本事項（基準日時点）

事業種別	道営土地改良事業費（農地整備事業（経営体育成型））				
ふりがな 地区名	かみほろむいたい 上幌向第2	市町村名	岩見沢市	総事業費	5,647 百万円
負担割合	国	道	市町村	-	その他
	55.0%	32.5%	-	12.5%	
	3,106 百万円	1,835 百万円	-		706 百万円

事業目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ●良質米安定生産および転作物の生産性向上を図る。 ●農作業効率の向上および水管理の合理化により労働時間の縮減を図る。 ●換地により農地や農業施設の再編整理を図る。 ●担い手への農地集積を図る。 ●事業実施により安全・安心な食の生産をささえる。
---------	---

【アウトカム】等
 ●事業実施前（H29年（2017年））の担い手農地利用集積率（受益面積のうち担い手が耕作する面積の割合）は96.3%だが、本事業を実施することにより事業完了翌年には97.3%と上昇が見込まれる。

事業概要	岩見沢市のほぼ中央に位置し、幾春別川の左岸に位置する平坦な本地区において、良質米を生産するため、安定した用水供給や適切な深かんがい等の水管理に対応できる農業用水施設の整備を行う。また、区画整理により現況50a程度の区画を1.2ha程度の規模へ大区画化し、併せて排水改良のために暗渠排水など総合整備を行う。	工事費内訳	受益面積	445ha → 443ha	(百万円)	(百万円)	(百万円)	
			受益戸数	41戸 → 38戸	前回評価	今回評価	増減額	
			用水路	6,163m → 5,660m	491	863	372	
			排水路	12,849m → 15,466m	403	722	319	
			区画整理	371ha → 372ha	2,388	3,377	989	
			（整地、暗渠排水、客土、用水路、排水路、耕作道）					0
			測量試験費		524	559	35	
			用地補償費	用地買収、電柱移設ほか	50	74	24	
			換地費		44	52	8	
			計		3,900	5,647	1,747	

総合計画での位置付け	総合計画の体系	大項目	中項目	小項目	施策名
		経済・産業	農林水産業の持続的な成長	潜在力のフル発揮で地域の経済・社会を支える農業・農村づくり	農業農村整備の推進

特定分野別計画等での位置づけ	施策目標・方針	【計画名：第6期北海道農業・農村振興推進計画 P23】（生産基盤の強化）スマート農業技術や高収益作物の導入を容易とするほ場の大区画化や農地の排水対策など、農業の生産力と競争力の強化に向けた整備を推進する。
	関連する指標	食料自給率（カロリーベース） 令和12年度（2030年度） 目標値：268%

II 公共事業評価経過

事業経過	事業採択	着手	評価年度	完了予定	経過年数	事業費	総事業費(a)	道負担額	当該年度事業費	累計事業費(b)	進捗率(b)/(a)	
	事前評価又は当初	H30(2018)	H30(2018)	H28(2016)			H38(2026)	3,900	1,268			
	前回再評価											
	今回評価	H30(2018)	H30(2018)	R4(2022)			R8(2026)	4	5,647	1,835	865	2,789

変更理由・内容（概要）	(1)旧河川敷地の払い下げができなかったことによる変更 (2)施設配置計画の見直しによる変更 (3)暗渠排水整備のための排水路の追加 (4)現地測量精査による変更 (5)現地軟弱土に起因する工法の変更 (6)区画配置変更に伴う整地工法の変更 (7)暗渠排水掘削機種の変更 (8)排水路の資材再利用から新材への変更 (9)自然増による増額
-------------	--

III 事業採択前の状況

1. 事業採択に至る経過と背景	本地区は、平成初期の道営ほ場整備事業により現在のほ場区画や用排水路等が整備されたが、泥炭土壌に起因した用水路やほ場の不等沈下により、深かんがいによる冷害対策が行えないほか、排水不良となっているほ場では作物の生育不良や品質低下、作業効率の低下が顕著であり、漏水により用水不足が生じているほ場では冷害の影響を大きく受けている。加えて、ほ場が小区画であるため、作業効率が悪く担い手への農地集積の支障となっていることから、基盤整備をすることによって農業生産の体質強化を図るため、平成27年（2015年）に北海土地改良区から事業採択に向けた要望が出された。
2. 事業検討の経緯（住民ニーズの把握等）	<ul style="list-style-type: none"> ●H27年（2015年）4月 北海土地改良区から空知総合振興局へ整備要望 ●H28年（2016年）4月 総合振興局で地域の整備要望を踏まえ調査を開始 ●H29年（2017年）11月 土地改良法に基づき事業申請 ●H30年（2018年）3月 事業採択
3. 事業効果を及ぼす地域・対象	<ul style="list-style-type: none"> ●岩見沢市上幌向町 受益面積445ha→443ha、受益戸数41戸→38戸

4. 関連する事業	事業名	事業主体	事業期間	事業費(百万円)	事業内容

IV 事業の実施状況

1. 進捗状況	(1) 事業実績及び今後の計画											進捗状況	事業費(百万円)	
	施工(工種)区分	工事内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8			
	用水路	L=5,660m				←L=390m→			←L=5,270m→				7%	863
	排水路	L=15,466m			←L=4,657m→				←L=10,809m→				38%	722
	区画整理	A=372ha			←A=194ha→				←A=178ha→				57%	3377
	測量設計費	調査・設計			←事業設計等→				←工事数量算定→				90%	559
	用地費及補償費	用地買収・物件補償			←用地買収・電柱移設→				←電柱移設→				14%	74
	換地費	換地処理			←換地原案作成→				←一時利用地指定・換地処分→				18%	52

(2) 進捗状況

●事業は概ね予定どおり進捗しており、今後の実施に当たっても特に大きな支障となるものはない。

b

a: 概ね予定どおり実施している。 b: 事業計画・期間等を変更し実施する。
c: 問題が生じ、実施に支障をきたしている。

2. 事業効果	経済効果の内訳(百万円)		費用の内訳(百万円)		備考
	項目	R4現在	項目	R4現在	
	作物生産効果	3,507	農業用排水施設	2,029	<ul style="list-style-type: none"> 「土地改良事業の費用対効果分析マニュアル」(農林水産省H30改正)に基づき算出 経済効果の合計と費用の合計は、「工期+40年」の累計で算出しR3年度に現在価値化しているため事業費と異なる。 農業用排水施設(区画整理内排水含む)と接続する上位排水施設等にかかる費用を「関連施設」として計上している。 維持管理費削減効果は、現施設の維持管理費に対して、再整備した場合の維持管理費の増減及び事業を実施せず現施設がなくなった場合の維持管理費の増減の合計より、マイナスとなる。
	品質向上効果	743	区画整理	4,008	
	営農経費節減効果	5,456	関連施設	1,900	
	維持管理費節減効果	△ 298			
	災害防止効果	181			
国産農産物安定供給効果	465				
合計(B)	10,054	合計(C)	7,937		
B/C	前回算定年度 : H28年度(2016年度) 前回算定時B/C : 1.36 変更理由 : <ul style="list-style-type: none"> 事業費の増加に伴う総費用の増加 営農経費節減効果算定時の用水なかりせばシナリオの変更による総利益の増加 諸係数・単価等の時点修正による効果額の変更 				
R4現在					
1.26					

3. コスト縮減などの取組	取組の項目	取組内容	縮減額(百万円)
	施工の最適化	整地工において、反転均平工法の実施により施工費用を縮減。	20

V 評価

1. 必要性	(1) 環境上の配慮及び課題	
		<ul style="list-style-type: none"> ●泥炭土壌に起因し施設は不等沈下による機能低下が著しく、用水の安定供給ができないことや維持管理費の増加など水管理に苦慮している。加えて、ほ場が小区画であるため、作業効率が悪く担い手への農地集積の支障となっていることから、大区画ほ場の整備が必要である。また、排水不良がほ場の効率的作業や水田の畑利用の妨げにもなっていることから、暗渠排水及び暗渠排水の落口を確保する排水路の整備を行い、排水不良を改善することが必要である。 ●暗渠排水と併せて、集中管理孔を整備し、管内清掃等の維持管理を容易に行うことで長寿命化を図る。 ●良質米を安定して生産するために、深水かんがい用水の確保などを目的とした国営かんがい排水事業空知中央地区により基幹水利施設が整備されているものの、末端排水路は機能低下によって水路勾配が不規則になり安定した用水供給の支障となっていることから、早急な整備が必要となっている。
a	a: 事業の必要性に変化はなく予定どおり事業を推進する。 b: 着工後の状況変化により事業計画の変更が必要である。 c: 着工後の状況変化により事業推進の是非を判断する必要がある。	

2. 事業を推進する上での課題	(1) 環境上の配慮及び課題	
		<ul style="list-style-type: none"> ●本地区は、岩見沢市が作成した田園環境整備マスタープランにおいて環境配慮区域に位置付けられている。 ●下流河川の生態系への影響に配慮するため、雨天時を休工とするなど、濁水が発生しないよう施工している。 ※事前評価時からの状況変化はない。
	(2) 事業推進に対する住民の動向	
	<ul style="list-style-type: none"> ●事業着手以降毎年、事業促進期成会を通じて早期完成に向けた要望が行われている。 	
(3) その他の課題		
	<ul style="list-style-type: none"> ●特になし 	

3. 事業達成の見込み	●今後の事業実施に当たって特に大きな支障や課題はなく、予定年度での事業達成が見込まれる。				
	a	a: 現時点では事業の進捗に影響する課題はなく、達成が見込まれる。 b: 課題はあるものの達成は可能である。 c: 大きな課題があり達成には相当の困難が予想される。			
4. 対処方針	●事業の必要性に変化はなく、地元からの早期完成要望も受けているため、令和8年度の完成を目指して事業を継続する。				
	a	a: 継続 b: 終了 c: 休止 d: 中止			
事業期間変更の有無		無	事業内容変更の有無		有
					総事業費変更の有無
					有

VI 備考

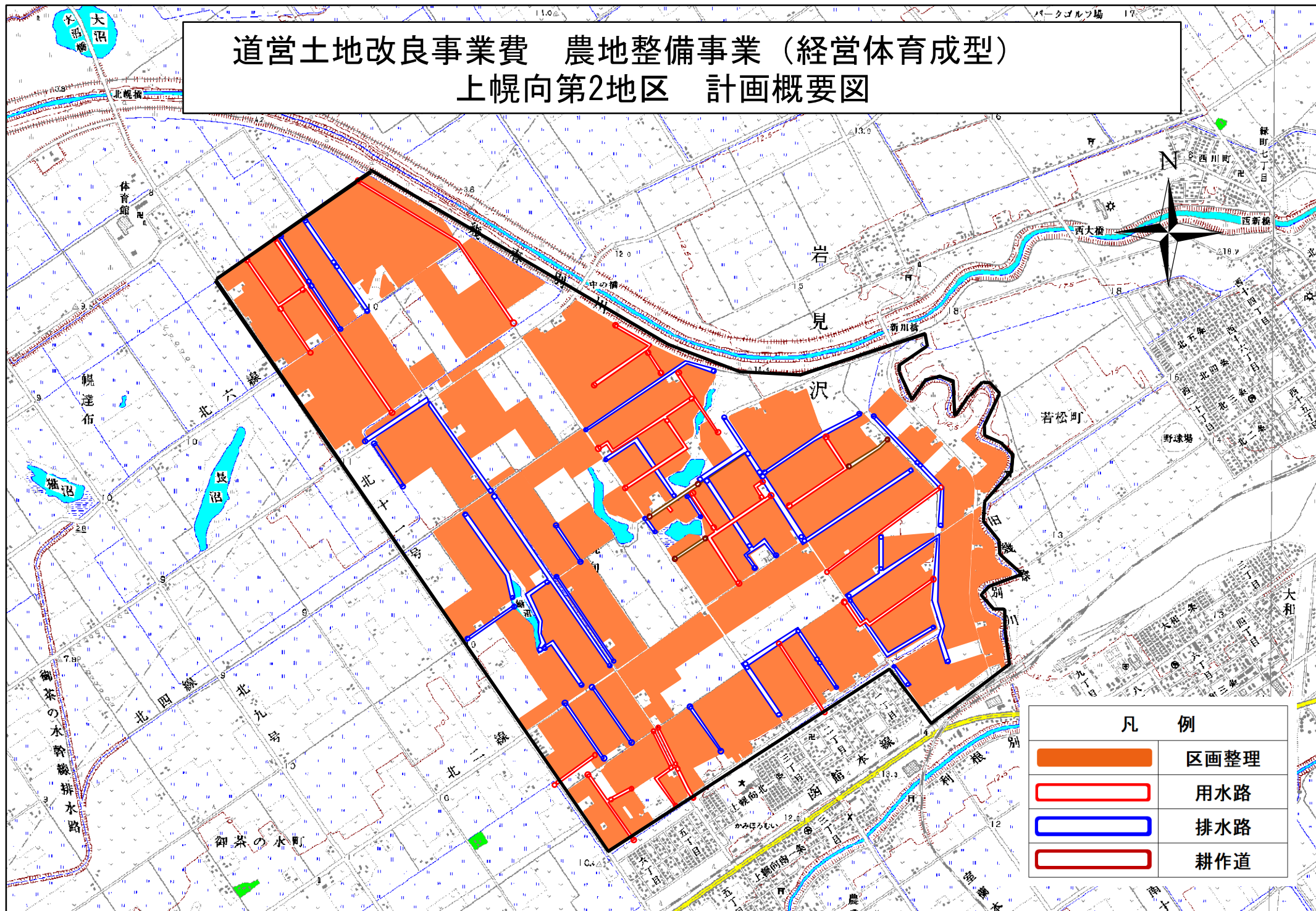
1. 評価履歴	【評価結果】 事前評価：平成28（2016）年度評価 評価結果：要望を行うことは妥当 B/C=1.36 再評価：該当なし
	【特記事項】
2. その他の取組事項	





補足資料

VII 事業計画変更

事業経過							事業費			
	再評価	事業採択	着手	評価年度	変更年度	完了予定	総事業費 (a)	当該年度事業費	累計事業費 (b)	進捗率 (b)/(a)
事前評価 又は当初		H30 (2018)	H30 (2018)	H28 (2016)		H38 (2026)	3,900			
変更①		H30 (2018)	H30 (2018)		H29 (2017)	H38 (2026)	3,900			
変更②	1回目			R4 (2022)	R3 (2021)	R8 (2026)	5,647	865	2,789	49%
変更③										
変更④										
変更⑤										
変更⑥										
変更⑦										
変更⑧										
変更⑨										
変更⑩										
							4			
変更理由・内容							変更①：事業内容の変更（事前評価後から事業採択までの変更） ・旧河川敷地を払下げできなかったことによる事業量の減 変更②：事業内容・総事業費の変更 ・用水路について、区画形状の変更に伴う配置計画見直しによる事業量・事業費の減 ・排水路について、詳細測量の結果、暗渠排水整備予定箇所の排水路が切深不足であったことから整備を追加することによる事業量・事業費の増 ・区画整理について、現地測量精査による事業量の増 ・現地軟弱土に起因する工法変更による事業費の増 ・区画整理について、区画形状の変更に伴い田差が大きくなり、整地工法を変更したことによる事業費の増 ・区画整理について、区画形状の変更に伴う配置計画見直しによる事業費の増 ・区画整理について、埋木が確認されたことに伴い暗渠掘削機種を変更したことによる事業費の増 ・区画整理について、既設コンクリートガレムを再利用していたが、必要な強度が得られなかったため、新材に変更したことによる事業費の増 ・資材、労務単価の上昇や消費税率の変更による増額			

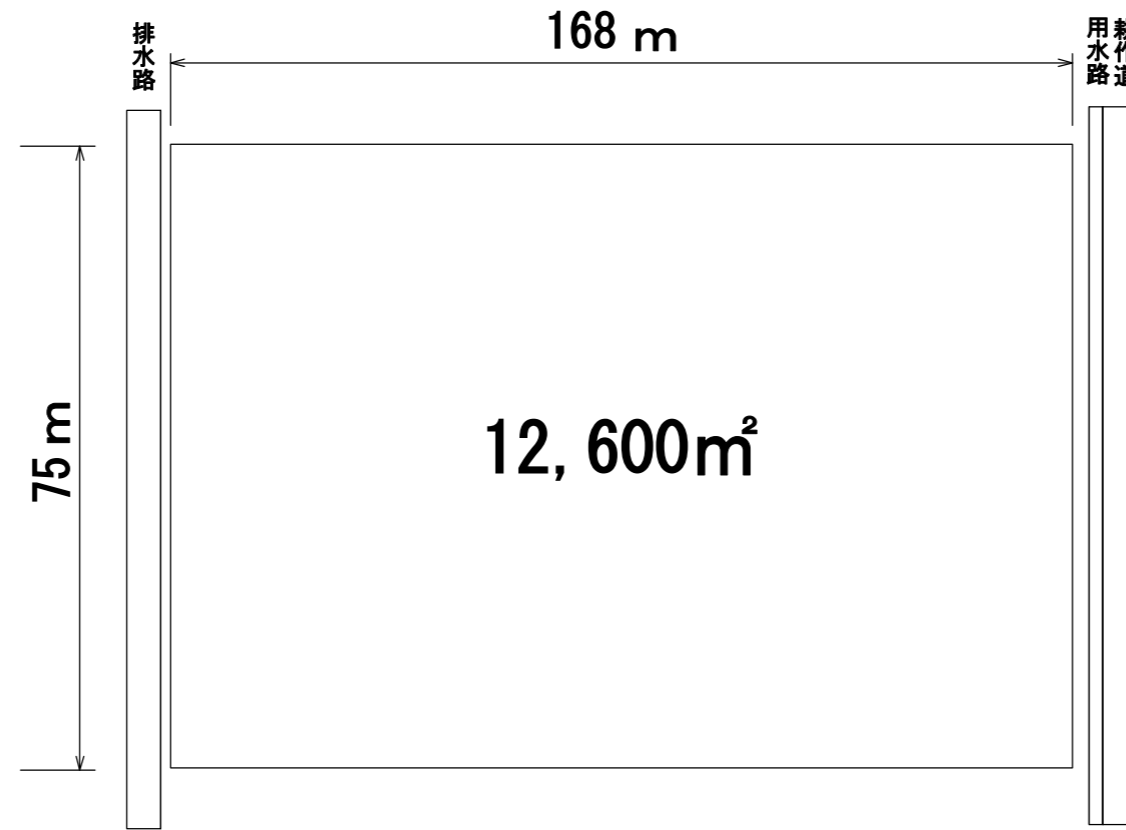
道営土地改良事業費 農地整備事業（経営体育成型） 上幌向第2地区 計画概要図



凡 例	
	区画整理
	用水路
	排水路
	耕作道

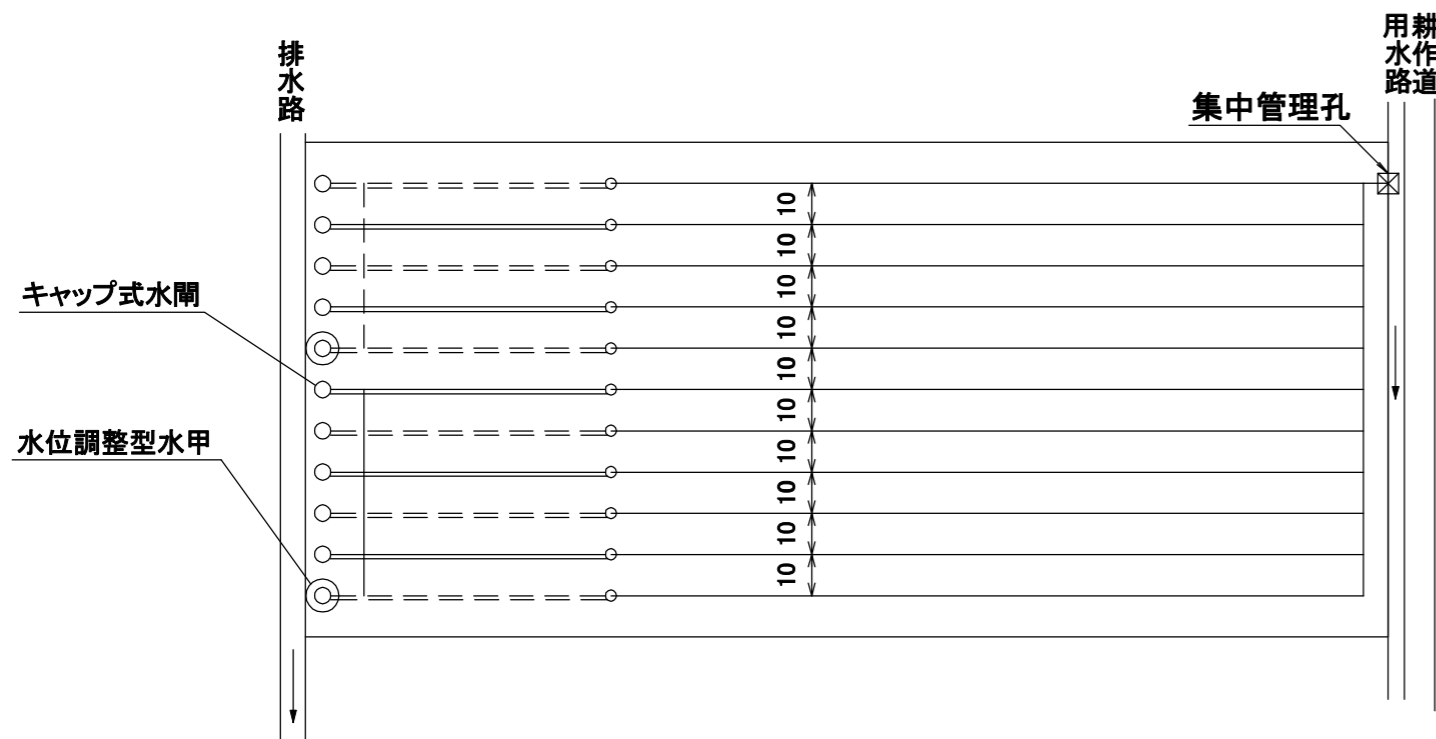
標準構造図(1)

標準区画割図



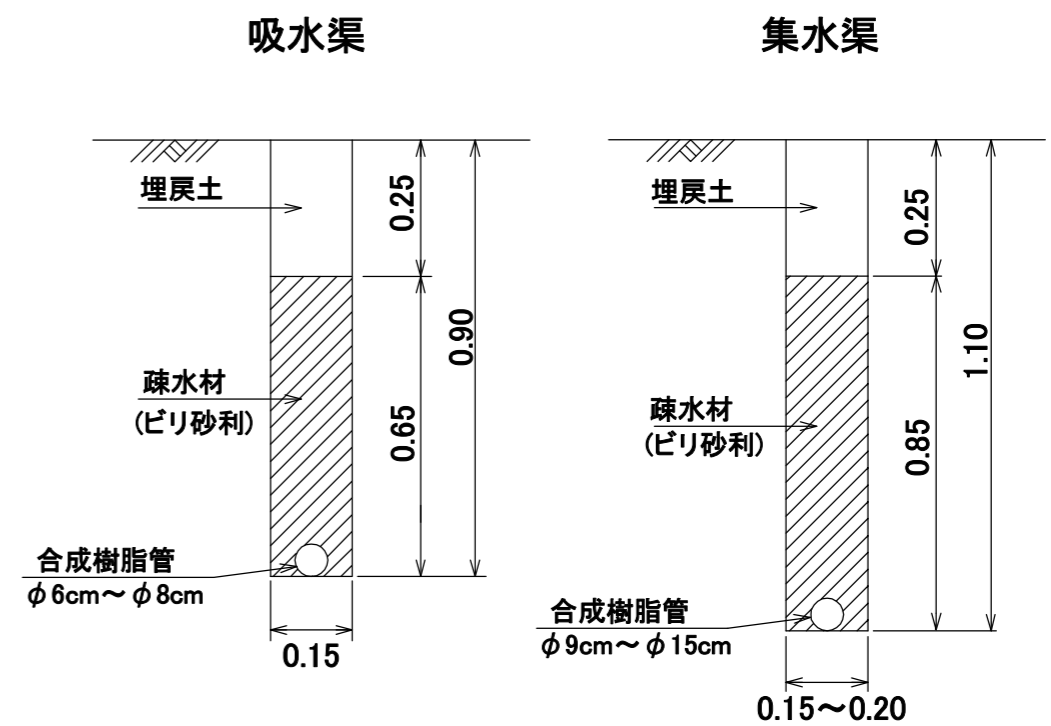
暗渠排水標準図

配線図



断面図

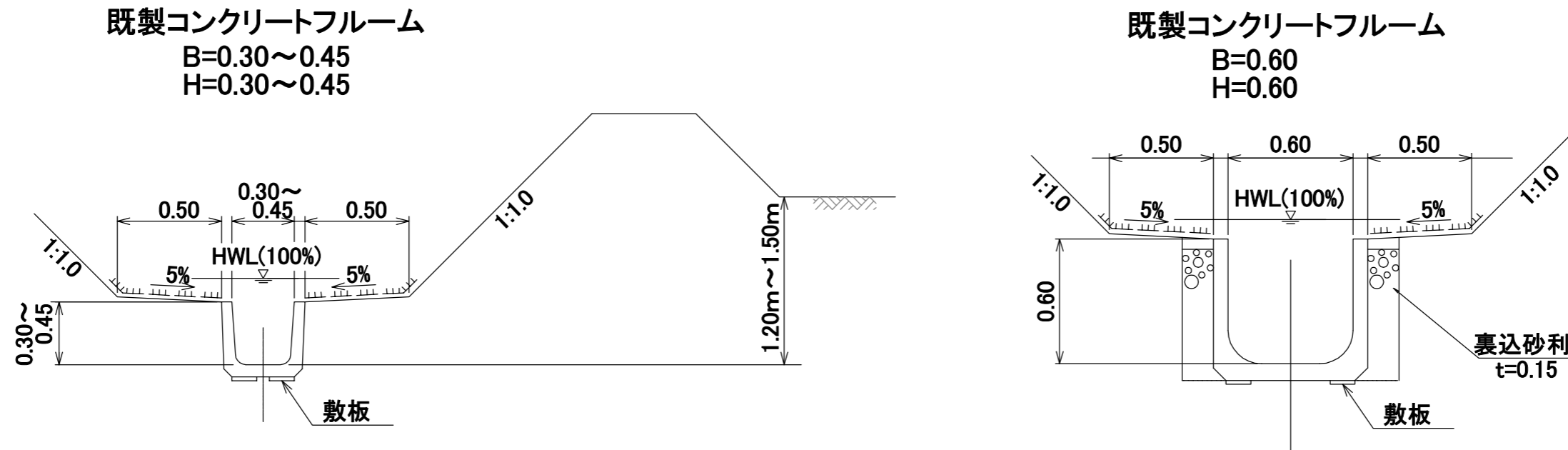
(単位：m)



標準構造図(2)

排水路標準定規図

(単位：m)



用水路標準定規図

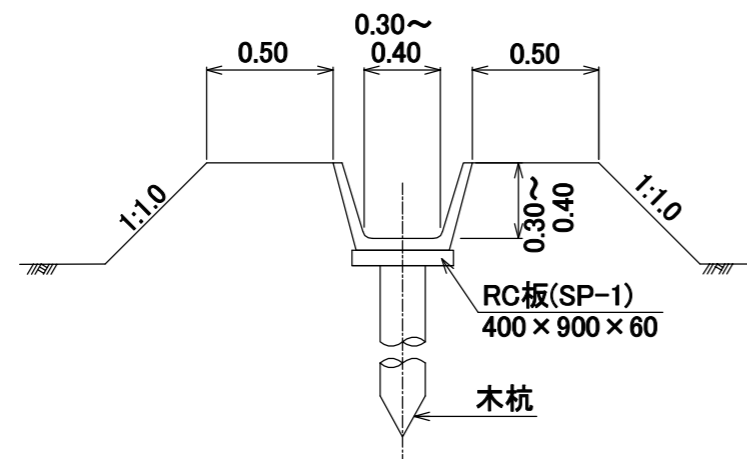
(単位：m)

開水路

管水路

既製コンクリートフルーム

B=0.30~0.40
H=0.30~0.40



硬質塩化ビニール管(VU)

φ 500~φ 150

高密度ポリエチレン管

HSPE φ 600

